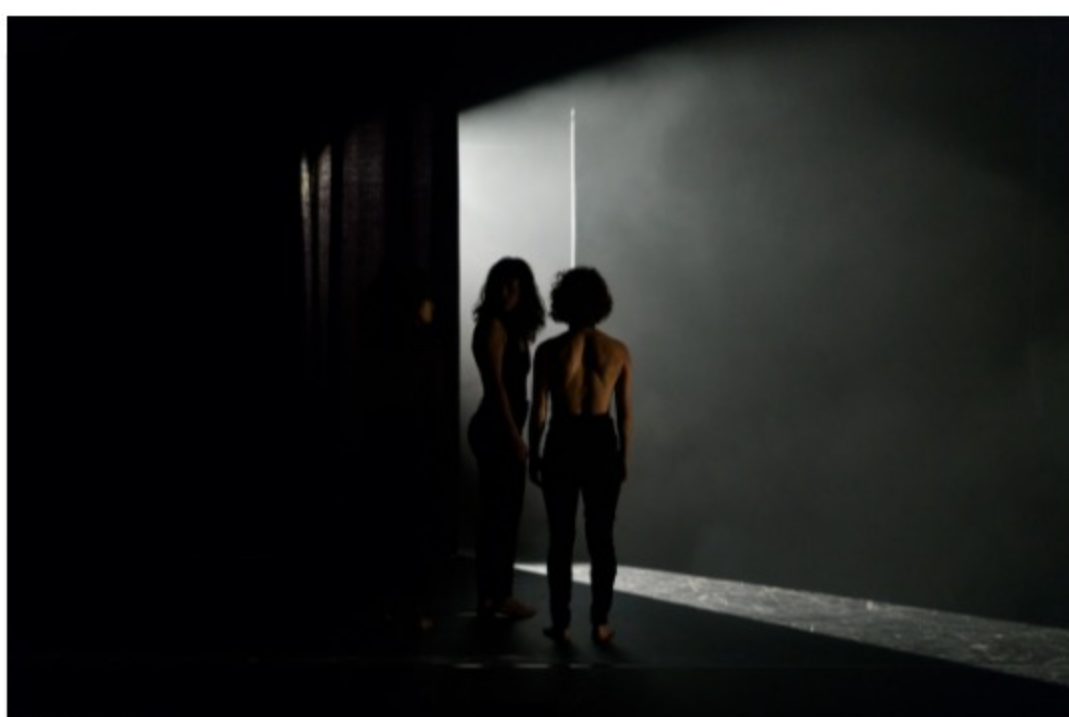
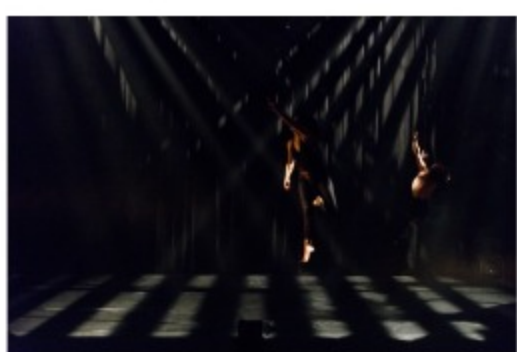


フランスから現代サーカスの若きカリスマが初来福！

福岡市の姉妹都市・ポルドー市を活動拠点とし、フランス現代サーカスの若きカリスマともいわれるラファエル・ボワテルが世界初演の作品を披露しました。3人の出演者によるコントーション（柔軟芸）、エアリアル（空中芸）、ダンス、演劇的な要素が融合した身体性豊かな表現が、ぼんブラザホールの劇場空間を席卷。福岡市民芸術祭オープニングイベント「線香花火」、メイン事業「Air/エア」とともに現代サーカスの魅力を多面的に紹介する機会にもなりました。



撮影：（公財）福岡市文化芸術振興財団

関連企画 ラファエル・ボワテル ワークショップ

ラファエル・ボワテルの創作のエッセンスを体感するワークショップを、公演翌日10月27日（日）にぼんブラザホールにて行いました。小学生、パフォーマー、俳優など年齢も活動も多岐にわたる方々が参加。ラファエルの素敵な笑顔に導かれながら、ウォーミングアップから、集団で呼吸を合わせて作品を即興的に創り上げるところまで一気に進みました。



撮影：（公財）福岡市文化芸術振興財団

■Cie L'Oublié(e)/カンパニールーブリエ（現代サーカスカンパニー）

2012年、演出・振付を務めるラファエル・ボワテルを中心に設立。

サーカスに、演劇、ダンス、映画など、様々な分野を様々な形で融合させ、新しい身体的・視覚的言語の開発に力を入れている。特にエアリアル（空中パフォーマンス）では、伝統的なサーカスでは見られない画期的な新しい装置を開発。唯一無二のスタイルが注目を集める。

【主な代表作】

2018年 La Chute des anges /地上の天使たち、

2017年 La Bête noire

2015年 5es HURLANTS

2014年 L'Oublié(e)

2013年 Consolations ou interdiction de passer par-dessus bord

■Raphaëlle Boitel/ラファエル・ボワテル（演出・振付）

1984年生まれ、6歳より舞台に立つ。アニー・フラタリーニに見初められ、92年フランスのサーカス学校の名門、アカデミー・フラタリーニに入学。98年から2010年まで、兄のカミーユ・ボワテルと共にフランス現代サーカスの旗手ジェームズ・ティエレ（姉は『ミユルミ ユルミユール』のオーレリア・ティエレ）のもとで活動し、『La Symphonie du Hanneton』『La Veillée des Abysses』に出演。平行して演劇や映画、テレビなどでも活躍。2012年、オーレリアン・ポリー（Cie 111）『Géométrie de caoutchouc』に出演。その後、自身のカンパニーを立ち上げる。2013年、最初の作品『Consolations ou Interdiction de passer par-dessus bord』を発表し、15年にはサーカスへのオマージュを込めた『5es Hurlants』を発表。自身の作品の他、ミラノ・スカラ座のオペラ『マクベス』や、パリ・シャトレ座でオペラ『美しきエレヌ』、オペラ=コミック座でパロッドオペラ『アルシオーヌ』の振付を担当している。

• DropShadows_A4.pdf

開催日時	2019年 10月26日（土）13:00/16:00
会場	ぼんブラザホール
主催等	<p>【演出・振付】ラファエル・ボワテル 【照明・セットデザイン】トリストラン・ボドワン 【音楽】アルチュール・ピゾン 【リギング】ニコラ・ルーテル</p> <p>【出演】ラファエル・ボワテル、エミリー・ズーケルマン、クラハ・アンリ</p> <p>主催：（公財）福岡市文化芸術振興財団、福岡市 企画協力：世田谷パブリックシアター 後援：福岡市教育委員会、在日フランス大使館、アンスティチュ・フランセ日本 協力：アンスティチュ・フランセ九州 助成：アンスティチュ・フランセパリ本部、アンスティチュ・フランセ/ポルドー市/ポルドー・メトロポール、アンスティチュ・フランセ/ヌーヴェル・アキテーヌ地域圏</p> <p>第56回福岡市民芸術祭メイン事業関連企画 beyond2020認証事業</p>